

交野フアイトアーズ快勝4強

関西団地軟式少年野球
第93回中央決勝大会
準々決勝 (10日、大阪市舞
洲中央運動場)

主催 デイリースポーツ
関西団地軟式少年野球
連盟
後援 都市再生機構
URコミュニティ
協賛 内外ゴム
オリックス野球クラブ

準々決勝4試合が行われ、初優勝を狙う交野フアイトアーズ、1989年以来の優勝を目指す赤坂台レッドスターズなどがベスト4を決めた。準決勝2試合（交野フアイトアーズ―中もすシャークス、晴美台タイガース―赤坂台レッドスターズと、決勝は20日に行われる。

5年生松口が先制二塁打

初Vへ気合「優勝したい」

交野フアイトアーズ（東大阪）は、1001110-14 100110000-14 交野フアイトアーズの2番・松口が存在感を示す。「しっかりと打て」と振り返る適時二塁打。鮮やかな先制劇でチームに流れを呼び込んだ。

迷いのないスイングから放たれた力強い打球が左中間で跳ねた。初回無死二塁。いきなり負けしと奮闘する新



2安打2打点の活躍でチームを引っ張った交野フアイトアーズ・松口

5年生は、五回にも追加点をたたき出す。無死三塁から右翼への適時二塁打。2安打2打点と躍動した。

もう一人の殊勲者は、7番の東野だ。四回一死三塁から左前適時打。六回一死三

打を放つなど各打者の振りの鋭さが目を引く。800gを超える木製バットを使った素振りとソフトボール打ちで鍛えてきた。東野は「スイングが速くなったと思う」とその効果を実感する。

これまで最高成績は第83回大会の準優勝。見据えるのは初の頂点のみ。「2試合勝つて、優勝したい」。松口はチームの思いを代弁するように力強く言い切った。

(岡本浩孝)

「夏は優勝したい」

真面目な先発が打たれて、切り替えができなかった。勝ちたい気持ちが強すぎてリズムに乗れなかった。夏は優勝したい!!

【交野】

打	2	2	1	0	3	0	0	0
安	2	2	1	0	3	0	0	0
打	4	4	3	3	2	2	3	3
本	4	4	3	3	2	2	1	0
点	2	2	1	0	2	1	0	2

【赤坂台】

打	4	3	3	3	2	2	1	0
安	0	0	1	2	0	0	0	0
打	7	7	7	7	7	7	7	7
本	0	0	1	2	1	0	0	0
点	0	0	1	2	1	0	0	0

234

「一番捕手」井上が千金同点打

赤坂台レッドスターズ逆転勝ち



放見スを打った赤坂台レッドスターズの一塁手井上

だ。このチームは、6回無失点の活躍で、そのまま逆転勝ちを挙げています。投手陣は、野村(投手)の好投が、チームの勝因となりました。

開成ジュニアアイス

「相手は、強豪チームです。投手陣は、清水(投手)の好投が、チームの勝因となりました。

赤坂台レッドスターズ	10000	42
開成ジュニアアイス	10000	42

た。臼杵監督が「野球をよく知っている」と信頼を寄せた。毎日、練習と走り込みの生活を送っている。小学3年生から捕手、憧れるのは「打てるキャッチャー」を体現する西武・森友哉。力が出せなかった中も、シャークス・ゴルドン星

高橋1失点快投7K

背番号「1」の高橋が、2安打7奪三振1失点の好投。6回ゴルドンの力投で、試合は終了。勝利は真贋した右腕は、「三振を取れたし、よかった。自分の手で

最後のメンポ良く投げ込んだ。第90回大会以来の優勝を目指し、中もシャークスは、を繰返した。



打つても4番の二刀流。ただ、4奪三振に7奪三振も絡んで8点奪った攻撃陣にあって、自身は悔いを残した。

初回は、野村投手の好投が、チームの勝因となりました。

赤坂台レッドスターズ	20000	24
開成ジュニアアイス	20000	24

「打つ方はあまりよくありませんでした。次の試合は、しっかり打ちました。バティングを鍛えていきたい」。

3連続長打!! 初回猛攻4点

次々に打球が外野手の頭上を越えていく。越え過す三塁打で連続、相手守備の乱れで2点を先制した晴美。

最終盤のピンチも、みんなで声を掛け合い、乗り越った。丸岡は「東北(支部)で負けたチームもいる。東北の代表として優勝したい」と力を込めた。

【初回のミスで4点とられて、負けそうだったが、自分たちの力を出せるチームにしたい」



赤坂台レッドスターズ	20000	24
開成ジュニアアイス	20000	24

赤坂台レッドスターズ	20000	24
開成ジュニアアイス	20000	24

赤坂台レッドスターズ	20000	24
開成ジュニアアイス	20000	24

赤坂台レッドスターズ	20000	24
開成ジュニアアイス	20000	24

赤坂台レッドスターズ	20000	24
開成ジュニアアイス	20000	24

赤坂台レッドスターズ	20000	24
開成ジュニアアイス	20000	24

「絶対に点を取りたかった。1球、1球に集中した。チームを勢いづける同点適時三塁打に、自然と声も弾んだ。

なお一死三塁では三塁走者として二ゴロで抜群のスタートを切り、勝ち越しのホームを踏んだ。第3打席でも中越え三塁打を打ち、2試合連続マルチ安打。守ってはエース今村に要所で声をかけ、2試合連続の好投三振の好投を引き出し

だ。このチームは、6回無失点の活躍で、そのまま逆転勝ちを挙げています。投手陣は、野村(投手)の好投が、チームの勝因となりました。

「相手は、強豪チームです。投手陣は、清水(投手)の好投が、チームの勝因となりました。

「打つ方はあまりよくありませんでした。次の試合は、しっかり打ちました。バティングを鍛えていきたい」。

最終盤のピンチも、みんなで声を掛け合い、乗り越った。丸岡は「東北(支部)で負けたチームもいる。東北の代表として優勝したい」と力を込めた。